

櫻井共和 [Sakurai Tomokazu] 画歴

- 1954(昭和29)年 福岡県築柴野市二日市に生まれる。
父は、[九州派](#)の美術家、櫻井孝身。
- 1970(昭和45)年 満15歳で渡米(~72年)、父とともにサンフランシスコに住む。
アート・コミュニン「コンニャク」に参加。
ヒッピーのような生活をおくが、ほどなくそこを飛び出してオークランドに移る。
このころ父にすすめられた[ボッシュ](#)の模写に取り組むが2ヶ月で断念。奇怪なイメージは本質的にはその体質に合わない。
だが、後のフランス時代にもシュール・リアリズムの影響を受け、イギリスの[フランシス・ベーコン](#)等の感化をうける。
- 1974(昭和49)年 ロックバンド『[サンハウス](#)』の初コンサートポスター作成。
- 1975(昭和50)年 福岡県文化会館個展(6月17日~22日)「春がきた」など大小の作品50点を展示。
『フクニチ』(6月19日)「鑑賞席」に「現代のビーナス」文・(深野治)が掲載される。
ヤマハ L-motion Rockのポスターに採用される。
- 1976(昭和51)年 東亜ギャラリー個展(8月24日~29日 福岡)
『フクニチ』(8月25日)「鑑賞席」に「新鮮な『現代』の発見」文・(深野治)が掲載される。
- 1977(昭和52)年 東亜ギャラリー個展、今日の美術展出品。
- 1978(昭和53)年 福岡画廊個展。
渡仏(~80年)父とともにパリに住む。すでに福岡時代に面識のあった筧本生との親交を深める。筧も福岡の出身で、櫻井より3歳年長だった。
エン・ギャラリー第10回個展(11月8日~13日 福岡)案内状に“JUMP IN TOO COSMOS”(文・鈴木召平 記録と芸術の会)が掲載される。
このころ3ヶ月間、一時帰国して個展を開催している。

- 1979(昭和54)年 在仏日本人画家展出品(パリ)
ノーベンバー・ア・ビットリー展(フランス)に「人と風と自転車と」
を出品高い評価を受ける。
このころ[ボッティチェルリ](#)や、[アンリ・ルソー](#)、[ピカソ](#)、[ダリ](#)、[マ
ティス](#)、フランシス・ベーコンなどにひかれる。
- 1980(昭和55)年 エン・ギャラリー個展(以後毎年個展)
このころ順子夫人と福岡で出会う。
福岡市美術展招待出品(~83年)
フジカワ画廊個展(6月25日~30日 福岡)え・こーる・ど・ふくお
か連鎖個展のトップバッター、「猫」「猫と少女」のシリーズを出
品。
『西日本新聞』(6月26日)「ギャラリー」で「てらいのない形、色」
が掲載される。
KBSギャラリー第16回個展「過去と未来の間で」(10月20日~26
日 福岡)
- 1981(昭和56)年 福岡市美術館第17回個展「私自身のための広告展」(4月21日~26
日)
KBCギャラリー個展(11月24日~29日)シリーズ「サイレント・クラ
イ」2点、「叫び」4点、子供の遊び姿20点などを出品。
『フクニチ』(11月28日)「美術展評」で「櫻井共和展」が掲載され
る。
- 1982(昭和57)年 第15回西日本美術展奨励賞受賞。
- 1983(昭和58)年 東京セントラル美術館油絵大賞展出品。
KBCギャラリー個展。
『フクニチ』(12月3日)「文化」の「アトリエ訪問30代・その人と
作品(13)」で「櫻井共和さん 変化を生の原動力に楽しく無理なく
瞬発力で」(文・勝瀬志保)が掲載される。
- 1984(昭和59)年 秀巧社ギャラリー個展(福岡)
なかむらギャラリー二人展(大阪)
福岡市美術館「30代展」(12月20日~27日)「二人で見たサーカ
ス」(100号F)を出品。
- 1985(昭和60)年 フジカワ画廊個展。

- 1986(昭和61)年 ギャラリーおいし個展(福岡)
有楽町マリオン・朝日ギャラリー個展(~89年 東京)
- 1987(昭和62)年 ギャラリーおいし個展。
『フクニチ』(6月26日)「芸術ART」の「どうして猫なのかなぁ油
絵作家櫻井共和さん」(文・阿部成人)が掲載される。
熊本県立美術館「心に刻むアウシュビッツ展」の告知ポスターを制
作。
福岡市美術館個展(8月16日~21日)100号30点を含む40点を出品。
『シティ情報ふくおか』(隔金刊8月22日号)「ART」に「ネコと女
を描き続ける櫻井共和展、市美で」が掲載される。
このころ日本興業銀行のカレンダー、同銀行の新聞広告、福岡の西
通りラーメン店一風堂の絵などでよくしられる。
有楽町マリオン・朝日ギャラリー個展(10月2日~7日)
『月刊アトリエ』(1988年1月号)「秋山塾長の愛あるイレコミ情報
局思い込みニュース」に「アッパレ!あんたが大将」(文・[秋山祐徳
太子](#))が掲載される。
- 1988(昭和63)年 ギャラリーおいし個展(5月14日~19日)
『西日本新聞』(5月14日)「ギャラリー」に「絵を楽しんで 櫻井共
和」が掲載される。
日本興銀のカレンダーに再採用される。
ギャラリー88個展(~91年 東京)
- 1989(平成元年)年 ギャラリーおいし個展(5月13日~18日)「なんとない日(1)」など近
作約30点を出品。
『毎日新聞』(5月11日夕刊)「美術」に「櫻井共和展 画風にいくら
かの変化」(文・重里徹也)が掲載される。
『フクニチ』(5月11日ごろ)「文化」の「展覧会散歩」に「櫻井共和
展」(文・阿部成人)が掲載される。
- 1991(平成3)年 趣味のキャットショーで猫(アメリカンショートヘア)の国際大会で
入賞し、授賞式に出席するため米国フィラデルフィアへ。
このときフィラデルフィア美術館でみたマティスの大作「[青いドレス
の女](#)」に感銘する。

- 1992(平成4)年 『月刊はかた』(8月号 No45)に「Gallery Rambling」に「小鳥のさえずりのような明るく楽しい絵画世界『女と猫の旦永』」(文・谷口治達 当時・九州造形短期大学教授)が掲載される。
- 1993(平成5)年 『毎日新聞』(11月14日、21日)に「ふくおか新名所評判記」として「新天町の画廊」と「けやき通りの喫茶店」の二回を掲載する。
- 1998(平成10)年 由布院駅アートホール個展(6月1日～30日)
湯布院・アートフォーラム「櫻井共和さんを迎えて」が開催される(6月20日)
- 2000(平成12)年 東京に移転する。
- 2002(平成14)年 おいしギャラリー個展。
- 2003(平成15)年 銀座・みゆき画廊個展「或る日」などを出品する。
- 2004(平成16)年 銀座・みゆき画廊個展
- 2005(平成17)年 銀座・みゆき画廊個展
東京都杉並区久我山に転居。
『日経ヘルスケア21』の表紙(12月号)掲載。
- 2006(平成18)年 銀座・みゆき画廊個展
真言宗豊山派清龍山遍照院の本堂の壁画制作依頼により「Lucky Dragon」シリーズを製作。
- 2007(平成19)年 銀座・みゆき画廊個展
- 2008(平成20)年 銀座・みゆき画廊個展